

図書館概論	対象講座	司書講習・学び直し
2 単位(30 時間)	水 沼 友 宏	
<p>【科目の概要】 社会における図書館の意義について理解を図り、図書館の現状、機能、歴史、種類、利用者、職員、類縁機関との関係、今後の課題について解説する。司書科目の出発点として、図書館についての最も基礎的な内容を取り上げ、各科目で学習する内容へのつながりや方向付けを示す。</p>		
<p>【ねらい】 図書館に関する基礎的知識と視点を身につけるとともに、各科目につながる学習の土台を形成することをねらいとする。</p>		
<p>【到達目標】 図書館に関連する概念や用語について理解するとともに、その全体像をつかむことを目標とする。</p>		
<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館とは 2. 図書館の自由と倫理綱領 3. 図書館の利用者 4. 日本の図書館の現状 5. 諸外国における図書館 6. 図書館の種類 7. 図書館の組織 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 図書館の経営 9. 図書館サービス 10. コンピュータの発達と図書館 11. 図書館に係る機関・団体 12. 場としての図書館 13. 図書館と著作権制度 14. 図書館学と図書館情報学 15. 図書館の課題と展望 	
<p>【テキスト】 指定しません。</p>		
<p>【参考文献】 指定しません。</p>		

生涯学習概論	対象講座	司書講習
2単位(30 時間)	尾谷 雅彦	
<p>【講義概要】</p> <p>生涯学習という用語が氾濫しています。しかし、はっきりとした定義がありませんから多義的につかわれ、ファジーなとらえかたをされています。さらに先行していた社会教育との関係も明確には示されていません。このような状況で、行政の中では、生涯学習が法的定義もないままつぎつぎと施策が行われています。</p> <p>生涯学習・社会教育の牽引役を担わなければならない図書館司書として、生涯学習と社会教育をともに学習しましょう。講義は適時配布するレジメで行います。</p>		
<p>【ねらい・到達目標】</p> <p>(1)生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し適切に説明できる。</p> <p>(2)生涯学習・社会教育に関する歴史過程を理解し歴史的意義を理解し説明できる。</p> <p>(3)生涯学習・社会教育に関する制度や行政、施策について理解し説明でき。</p> <p>(4)生涯学習社会の実現に向けての生涯学習・社会教育・学校教育の関係について理解する。</p> <p>(5)社会教育における学習プログラムの編成とその実施方法について理解、実践できる。</p> <p>(6)各種の社会教育施設や社会教育専門職員の概要とその役割と取り組みについて理解し、評価することができる。</p>		
<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習とは何か 2. 生涯学習と社会教育 3. 生涯学習関連施策 4. 社会教育の意義と歴史 5. 社会教育の内容・方法・形態 6. 社会教育指導者について 7. 社会教育施設について 8. 学習情報提供と学習相談 		
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しません。</p> <p>必要な資料は配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今西幸蔵編著『生涯学習入門』法律文化社 2011 ・赤尾勝己著『新しい生涯学習概論』ミネルヴァ出版 2012 ・山本恒夫編著『生涯学習支援の道具箱』一般財団法人 社会通信教育協会 2019 		

情報サービス論	対象講座	司書講習・学び直し・学校司書
2単位(30時間)	坂本 俊	
<p>【講義概要】 図書館における情報サービスの意義を明らかにするとともに、主にレファレンスサービス等で使用されるレファレンスブック、データベース等のレファレンスツールに関して解説していく。 また、ネットワーク情報資源を活用した情報探索・検索方法の習得を目指し、情報リテラシーを含む図書館利用者教育についても理解を深めていく。</p>		
<p>【ねらい】 1) 図書館における各種情報サービスに関する理解を深める。 2) 各種レファレンスツールの特徴を理解し、利用者ニーズに合致する適切な情報・資料の提供をおこなえるような能力を養う。</p>		
<p>【到達目標】 (1) 図書館における情報サービスの基本的なサービス概要に関して理解する。 (2) レファレンスブック・データベース等の各種情報資源の特性・特徴について理解を深める。 (3) ネットワーク情報資源を用いた情報提供の方法とあり方について明確に説明できる。</p>		
<p>【講義計画】 1. 図書館を取り巻く環境と情報サービス 2. 情報サービスの意義と種類(1): レファレンスサービス 3. 情報サービスの意義と種類(2): レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス 4. レファレンスサービスの理論と実践(1): レファレンスプロセス 5. レファレンスサービスの理論と実践(2): レファレンスインタビュー 6. 情報検索サービスの理論と方法(1): 書誌情報検索・文献検索</p>	<p>7. 情報検索サービスの理論と方法(2): 事実検索 8. レファレンス事例の分析(1): 即答質問の受付と処理 9. レファレンス事例の分析(2): 探索質問の受付と処理 10. 各種情報源の評価と解説 11. 図書館における情報資源の組織化 12. 発信型情報サービスの意義と方法 13. 情報サービスにかかわる知的財産権 14. 図書館利用者教育と情報リテラシー能力の育成 15. まとめ・試験</p>	
<p>【テキスト】 竹之内禎編著・情報サービス論 第2版(ハートブック司書講座・図書館の基礎と展望 4) 出版社名: 学文社(2024年) ISBN: 9784762033186</p>		
<p>【参考文献】 指定しません。</p>		

図書館情報資源概論	対象講座	司書講習・学校司書
2単位(30 時間)	加藤 靖子	
<p>【講義概要：ねらいと到達目標】</p> <p>印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の基本について学ぶ。類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。伝統的な図書館資料ならびに「ネットワーク情報資源」など、単に紙の媒体にとどまらず、近年多様化する図書館情報資源全般について、理解を深めることを到達目標とする。</p>		
<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館情報資源とは何か 2. 図書館の歴史および特性と構造 3. 図書館以外の印刷資料 4. 非印刷資料の種類と特徴 5. 電子資料① 6. 電子資料② 7. 資料特論(灰色文献、政府刊行物、地域資料等) 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 出版流通と図書館 9. 図書館の「知的自由」 10. 蔵書論 11. 収集と選択 12. 蔵書管理 13. 資料の組織化 14. 書庫管理 15. まとめ 	
<p>【テキスト】</p> <p>・馬場俊明編著『図書館情報資源概論 三訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ―8)日本図書館協会, 2024 ISBN 978-4-8204-2309-6</p> <p>【参考文献】</p> <p>・岸田和明編著『図書館情報資源概論 改訂』(現代図書館情報学シリーズ8) 樹村房, 2020 ・藤原是明編著『図書館情報資源概論』(講座図書館情報学 9)ミネルヴァ書房, 2018 ・吉井潤著『事例で学ぶ図書館情報資源概論』青弓社, 2023</p>		

児童サービス論	対象講座	司書講習
2単位(30 時間)	小前 恭則	
<p>【授業の概要】</p> <p>児童サービスは、公共図書館におけるサービスの大きな柱となっています。</p> <p>授業では、①子どもを知る、②子どもの本を知る、③子どもと本を結びつける、を中心に学びます。</p> <p>教科書のほか、重点項目は、【NOTE】として、最も基礎となるべき点をお伝えします。</p> <p>必ず、絵本・児童文学を1冊ずつ目を通しておいてください。</p> <p>絵本の読み聞かせ実習も予定しています。</p>		
<p>【ねらい】児童サービスの大切さを理解し、その知識と技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①子どもの発達段階を理解し、子どもの本の特性を理解し、子どもと本を結びつける技術の基礎を習得する。</p> <p>②さまざまな児童サービスを通じ、すべての子どもたちに読書の喜びを伝えるために必要な考え方と方法を理解し、説明することができる。</p> <p>③書評についての基礎を習得し、絵本の読み聞かせを実演できる。</p> <p>④課題やグループワークを通じて、児童サービスについての知識と感性を高めることができる。</p>		
<p>1. 児童サービスの意義 児童サービスとは何か</p> <p>2. 児童サービスの歴史 児童観の変遷、子どもの権利条約</p> <p>3. 子どもの生活と読書 発達段階と読書</p> <p>4. 児童資料の種類と特色 - 絵本 -</p> <p>5. 児童資料の種類と特色 - 幼年文学・創作児童文学・昔話</p> <p>6. 児童資料の種類と特色 - ノンフィクション・レファレンス・逐次刊行物 - 科学読物、マンガ</p> <p>7. 児童資料の選択・整理 蔵書構成、書評基礎論</p> <p>8. 児童サービスの諸活動 資料提供・情報サービス・フロアワークなど</p>	<p>9. 子どもと本をつなぐ方法(1) 読み聞かせ・ストーリーテリング</p> <p>10. 子どもと本をつなぐ方法(2) ブックトーク・アニメーション</p> <p>11. 子どもと本をつなぐ工夫、乳幼児サービス</p> <p>12. ヤングアダルトサービス、特別支援の必要な子どもたちへのサービス</p> <p>13. 特別支援の必要な子どもたちへのサービス(2) 学校・学校図書館との連携、</p> <p>14. 子どもの読書活動の推進、児童サービスの運営、テスト(演習後配信)</p> <p>15. (演習)絵本の読み聞かせ”</p>	
<p>【テキスト】堀川照代編著『児童サービス論 新訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-6)第3期 日本図書館協会 2020</p> <p>ISBN: 978-4-8204-1909-9</p>		
<p>【その他】指定テキストの他に、講師作成のテキストと資料集を別途配布します</p>		

情報サービス演習【補遺】	対象講座	学校司書
10 時間(5コマ)	佐久間 朋子	
<p>【講義概要】</p> <p>学校図書館の情報サービスについて解説、DVD 視聴を行い、児童生徒、教員に資料・情報を提供できる能力の育成を図る。</p>		
<p>【ねらいと到達目標】</p> <p>学校図書館における情報サービスの種類や各種情報源の特性を理解するとともに、児童生徒、教員に対する指導・助言ができる技術を身につけることを目的とする。</p>		
<p>【講義・演習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館における情報サービスの意義 2. 児童生徒及び教職員からの相談・質問への対応 3. 情報サービスの提供による探求的な学習の支援(テーマの設定・情報の収集・情報の分析・まとめ) 4. 各種情報源の比較と評価 5. レファレンスコレクションの整備(パスファインダー) <p>現場での具体的な情報を提供する。 なお、受講生数、理解度によって講義計画は変更する事もある。</p>		
<p>【テキスト】 使用しません。</p> <p>【参考文献】</p> <p>志保田務・北克一・山本順一 編著 『学校教育と図書館』第一法規 2007</p> <p>全国学校図書館協議会監修 『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践』新訂版 悠光堂 2021</p>		

図書館基礎特論	対象講座	司書講習
1 単位(15 時間)	岡本 真	
<p>【講義概要】</p> <p>公共図書館の経営・運営にあたっては、上位組織である自治体の政策を深く理解することが欠かせません。しかし、多くの自治体・図書館でこの点をないがしろにした公共図書館の経営・運営が行われています。このズレが公共図書館の危機を招いています。</p> <p>この認識に立ち、本講座では実際の自治体の取り組みを自ら調査・分析し、図書館政策の実際がリアリティーをもって学びます。</p>		
<p>【ねらいと到達目標】</p> <p>自治体の根幹的な政策の展開を調査・理解したうえで公共図書館の運営計画を具体的・実践的に立案できるようになることを目指します。本科目を修了することで、自治体政策の基本的な調査を遂行できる基礎知識の習得と、その知識に基づいて政策を理解できるようになることを図ります。</p>		
<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館政策論(1)－個別的政策の理解 2. 図書館行政の政策過程論 3. 図書館サービス計画の調査 4. 図書館サービス計画の分析 5. 図書館政策論(2)－総合的政策理解 6. 自治体総合計画等の調査 7. 自治体総合計画等の分析 8. 図書館政策論(3)－政策としての図書館 <p><u>なお、この講義ではパソコン等を使った情報検索や資料作成が必須となります。</u> <u>講義期間、ノートパソコンやタブレットを持参して受講することが強く望まれます。</u></p>		
<p>【テキスト】</p> <p>岡本真著『未来の図書館、はじめます』(青弓社、2018 年)</p> <p>岡本真、森旭彦著『未来の図書館、はじめませんか?』(青弓社、2014 年)</p> <p>※ただし、副読本としての位置づけです。</p>		
<p>【参考文献】</p> <p>『ライブラリー・リソース・ガイド』(LRG)(アカデミック・リソース・ガイド)</p>		

情報資源組織論	対象講座	司書講習・学び直し・学校司書
2 単位(30 時間)	園田 俊介	
<p>【講義概要】</p> <p>図書館における情報資源(印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源)組織化の理論として、書誌コントロールが行われるための技術を示す。それは書誌記述法、主題検索等である。図書館における、情報資源の組織化と検索について学ぶ。</p>		
<p>【ねらいと到達目標】</p> <p>印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化(記述目録法, 分類法, 件名法)を理解し、それらの基本的事項について説明できることを目標とする。</p>		
<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報資源組織論とは 2. 目録の役割 3. 目録の種類 4. 目録記入の構成 5. 書誌コントロール 6. OPAC の管理と運用 7. タイトルや著者からの検索 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 主題検索: 件名目録、分類目録 9. 書架分類(分順順配架) 10. 目録・書誌の基準とその歴史① 11. 目録・書誌の基準とその歴史② 12. ネットワーク情報資源とメタデータ① 13. ネットワーク情報資源とメタデータ② 14. 多様な情報資源組織 15. 全体のまとめ 	
<p>【テキスト】</p> <p>・不要(適宜資料を配布)</p>		
<p>【参考文献】</p> <p>志保田務・高鷲忠美(編著) 『情報資源組織法 第3版』第一法規 2021</p>		

図書館サービス特論 I A	対象講座	司書講習・学校司書
1単位(15 時間)	オムニバス形式	藤間 真
<p>【講義概要:ねらい、到達目標】</p> <p>この科目では、図書館で実際に働いている先輩の口から、図書館で提供されている色々なサービスの現状と展望を聞きます。</p> <p>そのことを通じて、本講習で学んだこと全体を、実際に現場で行われている創意工夫と整理・統合することを通じて理解を深めることを目指します。</p> <p>理論を実践していく現場の知恵を聞くことにより、講習全体で学んだものを各受講生が自分なりに消化し、専門職としての司書の礎となるように自分自身のものとするのがこの講義の到達目標です。</p> <p>なお、講義計画執筆段階で講師のスケジュール調整が終わってないため、下記に示すものはあくまで予定です。</p>		
<p>【科目概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 図書館サービスの概要の復習 2 図書館サービスの現状:図書館専門企業の現状紹介 3 図書館サービスの現状:国立国会図書館の現状紹介 4 図書館サービスの現状: 視覚障害者支援の現状紹介 5 図書館サービスの現状:学校図書館の現状紹介 6 図書館サービスの現状:専門図書館の現状紹介 7 図書館サービスの現状:公共図書館の事例より 		
<p>【テキスト】 指定しません。</p> <p>【参考文献】 指定しません。</p>		

情報サービス演習	対象講座	司書講習・学び直し・学校司書
2単位(60 時間)	オムニバス形式	藤間 真
<p>【講義概要:ねらい、到達目標】</p> <p>情報サービスとは、人々が求めるニーズに合わせて的確な情報を探索し回答を提供する図書館のサービスです。この科目では、図書館の情報サービスについて、その具体的な手法を実際に体験することを通じて、サービスの基本を学ぶことを目指します。</p> <p>演習形式の授業を中心として、冊子体の情報源であるレファレンスブックスの活用した情報の探索方法と、データベース等を用いて情報を検索する手法を習熟することを目的とします。</p>		
<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報サービス、検索の過程 2. レファレンスツール(コレクション) 3. レファレンスブックスを使った情報の検索 4. 論理演算 5. インターネットを活用した情報の検索 6. 商用データベースの検索 7. Web を利用した情報サービスの実際 8. 発信型情報サービスの実際 9. その他 <p>なお、演習の内容・演習環境(実習室等の定員等)に合わせて、受講生をいくつかの班に分けて演習を行います。また、スケジュール上先行する他の科目の状況を受けて上記内容に微調整を加えることがあります。</p>		
<p>【テキスト】</p> <p>・野口武悟、千錫烈〔編著〕 『Web で学ぶ 情報検索の演習と解説〈情報サービス演習〉』日外アソシエーツ 2023</p> <p>*本書付録のシリアルナンバーが使用済みになっている中古品は使用できません。新品をご用意ください。</p>		

情報サービス演習(レファレンス演習)	対象講座	司書講習・学び直し・学校司書
オムニバス形式	篠塚 富士男	
<p>【講義概要】 情報サービスでは、レファレンスブックやデータベース類が中心的情報源となる。本講義では、情報サービスを実施するにあたって基本となるレファレンスコレクションの整備、それらが対象とする主題や時代の範囲、検索方法等について学ぶとともに、さまざまな課題について回答を作成する演習を行う。</p>		
<p>【ねらい】 レファレンスブックやデータベース等について、レファレンスインタビューの実践を含む演習を通じてこれらの個々の情報源を受講者が適切に選択し使いこなすことができるようになることをねらいとする。</p>		
<p>【到達目標】 情報サービスにおいて図書館員に必要とされるレファレンスブックやデータベースの知識・検索技術を習得し、演習によって実践的な課題解決能力を身につけることを目標とする。</p>		
<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報サービスの設計 2. 情報資源とレファレンスコレクションの整備 3. レファレンスコレクションの評価 4. レファレンスプロセス 5. レファレンスインタビューの技法と実際 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 情報資源の特徴とそのアプローチ 7. レファレンスブック:紙媒体の情報資源 8. 質問分析と情報探索 9. 情報サービスの評価 10. 発信型情報サービス 	
<p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大谷康晴, 齋藤泰則編著『情報サービス演習』新訂版 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ ; 3-7) 日本図書館協会 2020 ・中西裕, 伊藤民雄, 青野正太著『情報サービス論及び演習』第4版 (ライブラリー図書館情報学 ; 6) 学文社 2024 ・毛利和弘著『文献調査法 : 調査・レポート・論文作成必携 : 情報リテラシー読本』第11版 DB ジャパン 2025 ・小曾川真貴著『調べ物に役立つ図書館のデータベース』2025年版 (ライブラリーぶっくす) 勉誠社 2025 		

情報資源組織演習(目録)	対象講座	司書講習・学び直し・学校司書
2 単位(30 時間)	下山 佳那子	
<p>【ねらいと到達目標】 本科目のねらいは、情報資源に関する書誌データやメタデータに関する演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成することである。 また、到達目標は下記 3 点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「情報資源組織論」で学んだ知識を、目録作業に活かすことができる。 2. 『日本目録規則』の規則を理解し、これらを活用した目録作業を行うことができる。 3. 書誌データのネットワーク化について理解し、適切なウェブサイトから適切な形式でデータをダウンロードできる。 		
<p>【講義概要】 図書館コレクション(印刷資料、非印刷資料、電子資料、ネットワーク情報資源など)を、利用者にとって利用しやすく、検索しやすいものとするための情報資源組織化の理論と技術についての演習を行う。 まず、書誌コントロールの概念、および記述目録法の概要を理解し、日本目録規則(NCR)による和書目録作業の演習を行う。次に、書誌データのネットワーク化、メタデータ付与の方法について、演習をまじえながら理解する。</p>		
<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、情報資源組織化、書誌コントロールの概要 2. 目録と目録作業の概要 3. 『日本目録規則(NCR)』と FRBR の概要 4. 体現形の記録 <ol style="list-style-type: none"> 1) 記録の基本原則～版表示 2) 出版表示～体現形の識別子 3) シリーズの記録、複数巻単行資料の図書の記録 4) 体現形の記録総合演習 	<ol style="list-style-type: none"> 5. アクセスポイントの構築 6. 著作と表現形の記録、「関連」の基本概念 7. 関連の記録 <ol style="list-style-type: none"> 1) 著作間の関連、表現形から著作への関連 2) 表現形と個人・家族・団体の関連、体現形間の関連など 8. 書誌データのネットワーク化 9. メタデータ演習 10. 総合演習(書誌データ作成) <p>成績評価は、出席態度、提出物、試験等により、総合的に行う。</p>	
<p>【テキスト】 ・竹之内禎ら編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』第 2 版、ミネルヴァ書房、2025、(講座・図書館情報学、11) ISBN978-4-623-09886-6</p>		

情報資源組織演習(分類)	対象講座	司書講習・学び直し・学校司書
2 単位(30 時間)	柳 勝文	
<p>【講義概要】 情報資源組織概説(分類)で学んだ理論的・実践的知識をふまえて、講義と演習により、主に『日本十進分類法(NDC)新訂 10 版』を活用した図書館資料の分類記号付与についての技術を習得することを目指す。</p>		
<p>【ねらいと到達目標】 本演習では、『日本十進分類法』(NDC)、『基本件名標目表』(BSH)という2つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し、図書館の実際の資料を対象に、情報資源の主題分析と記号化、統制語彙の適用、等の演習を行います。 到達目標は、『日本十進分類法』(NDC)を用いて、基本的な分類記号を付与することができることです。</p>		
<p>【授業計画】</p> <p>1. NDCの構成及び使い方</p> <p>2. 補助表の使い方 形式区分・地理区分・海洋区分 言語区分・言語共通部分・文学共通区分</p> <p>3. 分類規程の適用</p> <p>4. 各類別分類記号付与の実際 0類(総記) 1類(哲学・宗教) 2類(歴史・伝記・地理) 3類(社会科学) 4類(自然科学)</p>	<p>5類(技術) 6類(産業) 7類(芸術) 8類(言語) 9類(文学)</p> <p>5. 基本件名標目表による件名作業 件名規程、件名付与の実際</p> <p>6. 図書記号、別置記号の付与</p> <p>成績評価は、出席態度、提出物、試験等により、総合的に行う。</p>	
<p>【テキスト】 ・志保田務・高鷲忠美編著 『情報資源組織法演習問題集』第3版 第一法規 2021</p> <p>【参考文献】 ・志保田務編著『情報資源組織論：よりよい情報アクセスを支える技とシステム』(講座・図書館情報学 10) 第2版 ミネルヴァ書房 2016</p>		

図書館情報技術論	対象講座	司書講習・学び直し・学校司書
2単位(30 時間)	藤間 真	
<p>【授業の概要】 前世紀末以来、IT 化が進む日本社会において、公共図書館員に必要な情報通信技術の基礎を伝授するために、コンピュータ・ネットワーク等の基礎を講義した上で、図書館業務システム・データベース・検索エンジン・電子資料等への応用を扱う。 なお、受講生の状況等にあわせて、下記計画に微調整を加えることがあります。</p>		
<p>【ねらいと到達目標】 1. コンピュータとネットワークを中心に情報機器の基礎的知識を身に付ける。 2. 情報機器の図書館業務への応用についての基礎的知識を身に付ける。 3. 情報機器の社会的意義の基礎的知識を身に付ける。</p>		
<p>【授業計画】 1. 情報技術活用の現状 2. コンピュータの基礎 3. ネットワークの基礎 4. データベースの基礎 5. 検索エンジンの基礎 6. システム管理とセキュリティの基礎 7. 中間まとめと将来の展望</p>	<p>8. 図書館における ICT 活用の基礎 9. 図書館業務システムの基礎 10. 電子資料管理の基礎 11. デジタル・アーカイブの基礎 12. 障害者支援のための ICT 活用の基礎 13. 最新の情報技術と図書館、情報技術と社会 14. 総まとめ</p>	
<p>【テキスト】 ・岡紀子・田中邦英 共著 『3訂 図書館と情報技術－情報技術者検定3級対応』 樹村房 2023</p>		

図書館サービス特論 I B	対象講座	学校司書
1 単位(15 時間)※	吉澤 小百合	
<p>【授業の概要・ねらい】</p> <p>新学習指導要領に伴い、探究的な学習や児童生徒の問いから始まる情報の収集、処理、発信という一連のプロセスが、益々重要視されている。そのためには、図書館員が児童生徒の各発達段階に応じた情報サービスの種類や各種情報源の特性を理解し、日頃から学校の情報要求に耳を傾け、他機関との連携を図っていく必要がある。</p> <p>本授業では上記の理解を図り、児童生徒に資料・情報を適切に提供できる能力の育成を図る。</p>		
<p>【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒と教員の情報要求に応じた情報サービスの種類や各種情報源の特性を理解する。 ・情報サービス提供の工夫・改善について見通しを持つ 		
<p>【授業計画】</p> <p>第 1 回 学校図書館における情報サービス</p> <p>第 2 回 情報サービスの提供による探究的な学習の支援</p> <p>第 3 回 小学校における情報サービス</p> <p>第 4 回 中学校における情報サービス</p> <p>第 5 回 高等学校における情報サービス</p> <p>第 6 回 特別支援学校における情報サービス</p> <p>第 7 回 教員への情報サービス</p> <p>第 8 回 実際に職場に就いてからの工夫と改善について</p>		
<p>【テキスト】使用しない</p> <p>【参考文献】</p> <p>東京都立高等学校学校司書会ラーニングスキルガイドプロジェクトチーム編. 探究に役立つ! 学校司書と学ぶレポート・論文作成ガイド. ペリかん社. 2019、128p.</p> <p>AASL. <i>National School Library Standards for Learners, School Librarians, and School Libraries</i>. ALA. 2018、314p.</p>		

※司書講習の受講者が受講した場合、1 単位の修得が可能ですが、本科目は司書講習の法定科目ではないため、司書講習の修了要件単位には含まれません。同時受講される方はご注意ください。(2026/5/12 追記)

図書館施設論	対象講座	司書講習
1 単位(15 時間)	嶋田 学	
<p>【授業の概要】 公共図書館の立地、単館の建築計画から地域の図書館計画まで、また図書館施設内部の平面計画の考え方から書架、サイン等の製作まで、サービス拠点としての図書館施設の構成要素について述べる。</p>		
<p>【ねらいと到達目標】 ねらい： 公共図書館を主として、図書館の配置計画、建築概要・施設・平面・サイン・書架計画などについて学ぶ 到達目標： 地域における図書館サービス、図書館計画の考え方や図書館施設が地域の学びの拠点としてどのように造られているかを学ぶ。</p>		
<p>【授業計画】 第1回：授業ガイダンス図書館施設を学ぶ意義について 第2回：図書館施設の歴史 第3回：図書館の地域計画：図書館づくりのプロセス 第4回：図書館計画書の作成と建設設計 第5回：図書館のアクセシビリティに関する基礎・基本と関連法 第6回：図書館の部門構成と各部の計画(1)ゾーニングと動線計画、図書館家具、自動書庫、照明等 第7回：図書館の部門構成と各部の計画(2)サイン計画、ユニバーサルデザイン等 第8回：まとめ～図書館の維持・管理、防災計画等</p>		
<p>【テキスト】 なし 【参考文献】 中井孝幸・川島宏・柳瀬寛夫共著 『図書館施設論』《JLA 図書館情報学テキストシリーズ III 12》（日本図書館協会）</p>		

図書館制度・経営論	対象講座	司書講習
2 単位(30 時間)	平賀 研也	
<p>【講義概要・ねらいと到達目標】 本講の目的は「経営マインド」を持って図書館事業に臨む視点や方法を獲得することです。</p> <p>技術や暮らしの加速度的な環境変化により、社会のパラダイムが大きく変わってきたこの四半世紀、図書館や目の前の地域コミュニティで目にする人と情報の関わり方は大きく変化しています。情報を探索し、理解し、編集し、発信することがわたしたちの暮らしの最も重要な要素である知識基盤社会へと移り変わってきました。その変化は、わたしたち一人ひとりが単にマス/グローバルな情報を受け身で手にしたり、消費することにとどまらず、自ら能動的に情報を創造し、共有することができるようになる可能性を秘めてもいます。そんな今、図書館に携わるわたしたちは、情報メディアの一つである本を収集、収蔵し手渡すという事業にとどまるのでしょうか？その事業の領域を変化させるのでしょうか？どんな事業の姿を目指すのでしょうか？その答えは、一つひとつの地域社会、ひとつひとつの図書館によって異なるはずです。</p> <p>技術が革新され、人の暮らしが変わり、政策や制度が変わってきた様子をどう理解し、それにどう応えて図書館を経営するのか。事業経営の視点から振り返り、受講される皆さんそれぞれが、どんな「これからの図書館」を実現するのかを一緒に考えます。</p> <p>本講の最終成果物は、受講者それぞれにとっての「これからの図書館」のミッションステートメントを書くことです（単位認定はこれにより行います）。</p>		
【講義計画】 1. イントロダクション(本講の目的と進め方) 2. グループディスカッション(問い) 3. 戦略的経営のプロセス 4. 環境分析 1(環境分析概説) 5. 環境分析 2(情報環境・行動様式など) 6. 環境分析 3(内部環境など) 7. 環境分析 4(法・制度・政策1:歴史)	8. 環境分析 5(法・制度・政策2:マクロ) 9. 環境分析 6(法・制度・政策3:ミクロ) 10. 戦略の策定(事業領域、核となる力…) 11. フォローアップ 12. ミッションマネジメント解説 13. ミッションステートメントを書く 14. グループディスカッション(共有/ふりかえり) 15. ふりかえりとまとめ	
【テキスト】 使用しない		

図書館サービス概論	対象講座	司書講習・学び直し
2 単位(30 時間)	常世田 良	
<p>【講義概要】 図書館サービスは、図書館職員のスキルと資料、施設などの物的資源が複雑に組合わされ統合されて、最終的に利用者へ提供されるものである。したがって、財政や組織、分類や目録、選書や排架、リクエストやレファレンス、コンピュータシステムなどの図書館の諸要素は、全て利用者のニーズに対応したサービスを円滑に提供するために存在しているといつてよい。講習の各授業では、図書館業務や資料について要素に分解して解説されるが、諸要素は実際には複雑に関連しあいながらダイナミックに変動しつつ図書館を構成しているものである。最終的にはサービスという形で束ねられる人的、物的資源とサービスの有機的な関係が利用者、社会の変化と共にどのように変遷し、現在どのような状況にあり、またどのような理念、機能を生み出したかを概観する。</p>		
<p>【ねらい】図書館サービスの考え方と構造を理解する。資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、および著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を理解する。</p> <p>【到達目標】自治体内の基本的な図書館計画を策定し、各種サービスを実際に実施できる最低限のスキル、知識の習得。</p>		
<p>【講義計画】</p> <p>1. 図書館の理念とサービス 図書館の存在意義、図書館サービスの歴史</p> <p>2. 図書館サービスの構造と図書館資源 各サービスの相互関係 サービスを構成する業務と図書館資源</p> <p>3. 資料提供と全域奉仕 選定、収集、整理、排架、サイン、案内、リクエスト、レファレンス、配本所、読書施設、移動図書館、分館分室、地域館、中央館</p> <p>4. 対象者別サービス 乳幼児サービス、児童サービス、ヤングアダルトサービス、高齢者サービス</p> <p>5. 「図書館利用に障害のある人」のためのサービスと多文化サービス 障害者サービスのための資料と環境整備 アウトリーチサービス 多文化サービスのための資料と環境整備</p> <p>6. 課題解決型サービス 1 ビジネス支援サービス、健康情報サービス</p>	<p>7. 課題解決型サービス 2 法律情報サービス、行政サービス</p> <p>8. 媒体別サービス 図書、逐次刊行物、パンフレット、視聴覚資料、デジタル資料、その他の資料</p> <p>9. ハイブリッド図書館サービスと広報 印刷媒体とインターネット、データベース、パスファインダー、広報活動</p> <p>10. 集会事業と情報リテラシー支援 講演会、映画会、コンサート、利用者講習会</p> <p>11. 図書館サービスのための施設と危機管理 施設、設備、機器、快適性と安全性</p> <p>12. 図書館とボランティア ボランティアとは、ボランティアへの支援、ボランティア・友の会と連携</p> <p>13. 図書館サービスと著作権 1 著作権法の基礎、貸出、複写と著作権、映像資料と著作権</p> <p>14. 図書館サービスと著作権 2 障害者サービスと著作権、デジタル情報提供と著作権</p> <p>15. 各種図書館と図書館ネットワーク 国立国会図書館、公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、その他の資料提供施設、館種を超えたネットワーク</p>	

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

- ・日本図書館協会編
『中小都市における公共図書館の運営』復刻版 日本図書館協会 1973
- ・日本図書館協会編 『市民の図書館』増補版 日本図書館協会 2002
- ・前川恒雄編著 『貸出し』(図書館員選書 1)日本図書館協会 1982
- ・竹内愨編訳 『図書館のめざすもの』日本図書館協会 1997
- ・清水正之著 『図書館を生きる 若い図書館員のために』日本図書館協会 1995
- ・竹内愨著 『ひとの自立と図書館』(竹内愨講演集 1)久山社 2004
- ・日本図書館協会障害者サービス委員会編
『障害者サービス』(図書館員選書 12)補訂版 日本図書館協会 2003
- ・日本図書館協会障害者サービス委員会・著作権委員会編
『障害者サービスと著作権法』(JLA 図書館実践シリーズ 26) 日本図書館協会 2014
- ・日本図書館協会多文化サービス研究委員会編
『多文化サービス入門』(JLA 図書館実践シリーズ 2)日本図書館協会 2004
- ・図書館経営支援協議会編
『事例で読むビジネス情報の探し方がいっしょ 東京都立中央図書館の実践から』日本図書館協会 2005
- ・奈良岡功・山室真知子・酒井有紀子共著
『健康・医療情報を市民へ』(JMLA 叢書 3) 日本医学図書館協会 2004
- ・ロー・ライヴ ライオン研究会編
『法情報の調べ方入門—法の森のみちしるべ』(JLA 図書館実践シリーズ 28) 日本図書館協会 2015
- ・アンドレア・ケニヨン、バーバラ・カーニ著 公共図書館による医学情報サービス研究グループ 訳、野添篤毅監訳
『公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド』(JLA 図書館実践シリーズ 6)日本図書館協会 2007
- ・菅谷明子著 『未来をつくる図書館 —ニューヨークからの報告—』(岩波新書新赤版 837)岩波書店 2003
- ・マーク・ミス著 根本彰監訳 戸田あきら[ほか]訳
『インターネット・ポリシー・ハンドブック 図書館で利用者へ提供するとき考えるべきこと』日本図書館協会 2005
- ・鎌水三千男・中沢孝之・津森康之介著 『図書館があぶない！運営編』LIU 2005
- ・鎌水三千男著
『図書館と法—図書館の諸問題への法的アプローチ』(JLA 図書館実践シリーズ 12) 日本図書館協会 2009
- ・日本図書館協会図書館経営委員会危機・安全管理特別検討チーム編
『こんなときどうするの？—図書館での危機安全管理マニュアルの手引き—』日本図書館協会 2005
- ・日本図書館協会著作権委員会編
『図書館サービスと著作権(改訂 3 版)』(図書館員選書 10)日本図書館協会 2007
- ・名和小太郎・山本順一共著 『図書館と著作権』(インターネット時代の図書館情報学叢書 1)日本図書館協会 2005